

切管・割管時の既設管路固定治具

～「端持つ管な！（ハシモツカンナ）」～

概要

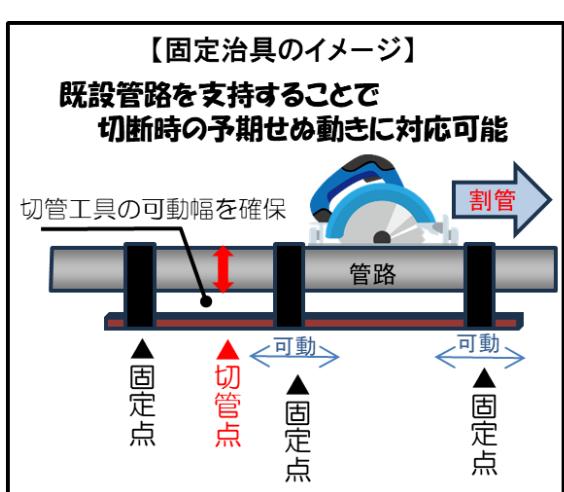
切管時に既設管路が予期しない動きをして収容ケーブルを損傷させる恐れがあるため掘削し露出させて管路は強固に固定して作業する必要がある。しかし、固定架台の作成に時間を要し、固定が強固であればあるほど安全性は向上するが「切管割管」作業の作業性が低下してしまう。



●切管割管作業時に管切断部周辺を支持する工具の開発

特徴

- 嵌合部はスナップ錠を採用し、ワンタッチ着脱
- 固定バンド部に蝶ネジを採用し、固定圧幅調整
- パイプとの密着面にゴムマットを貼り滑り止め
- 固定バンドはダクターチャンネル上をスライド移動が可能であり
切断作業の位置に応じて自在に対応可



管路固定治具を使用することで切断した箇所が固定され、安全かつ作業効率が図られる

効果

既設管路を固定できることで予期しない動きが抑えられる

▶ 作業性の向上：切管時に支える必要がない

▶ 作業の安全性向上：管路の歪から切管時の跳ね返り事故の防止

▶ 収容ケーブルの損傷防止：切断時の歪による屈曲が抑えられケーブルに負荷を与えない



◇ 問合せ先
株式会社SYSKEN
技術総合センタ
☎ 096-285-1303



詳しくはこちらか

